

平成23年6月29日

北海道農業者サロン
会員各位

北海道農業者サロン
理事 喜多 俊晴

夏期研修会開催について

驚くほど寒い毎日です。
露地の茄子やレタスが震えているのが解ります。

株式会社アレフの庄司昭夫氏、株式会社モスフードサービスの二瓶光夫氏の訃報、
いずれ冥土での再会を期します。
二瓶氏は勃興期のモスを背に、病を肩によくぞ頑張りました。

相撲の軍配団扇にある「進を知り退くを知る 時にしたがい出 処 冬はすなわち龍にひそみ 夏はすなわち鳳飛立つ 知進知退 随時出処 冬則龍潜 夏則鳳拳」— 自分は
自身が進むべき時と退くべき時を知っており、いつでもそれに従う。龍は厳しい冬の時代、
海に潜って息をひそめ夏を待ち、鳳凰となる」の体現者として深く敬意を表します。

「びっくりドンキー」創業者の庄司氏とは、日本フードサービス協会札幌全日空トップ
セミナーで共に講演したのを端緒に、商業界ペリカンクラブや酪農学園大学を核とした
中国内蒙古友好協会での活動、大根サラダの開発、伊達農場の開設など青春を共に
しました。

1968年、岩手県盛岡市でハンバーグとサラダの店「べる」から出発した事業が、
北海道を代表する外食産業に成長するには絶する困難があったと察します。

しかし、庄司氏が存分に生きたことは、ケルト神話に登場する生死を司る棍棒、気候
と感情を操る豎琴、無限の食料を蓄える大釜を持つ豊穡の神「DAGUDA」から名を得た
音楽演奏集団を持ったことに集約されます。

岩手・宮城への夢みる旅、内蒙古からトルファンへの訪中など思い出は尽きません。

若林雅彦君は株式会社牧家で牧場長、稲田武士君はえこりん村株式会社・株式会社蔚
珍口ハスコリア（アレフ韓国プロジェクト）の役員として葬儀で再会しました。

子息・大君を掲げた新生アレフがどう生きるか、父・昭夫氏の強い個性が発揮された
経営であった故に一抔の不安が残ります。

このところ、永井信氏が理事長に就任した遠軽家庭学校の酪農部門の経営に係わる機
会を得ました。

酪農学園大学〇〇〇〇教授のレポートは「まず目を引くのが人件費の占める割合の高
さである。収入に対して3割前後、支出に対して2割程度が適正な割合であるが、こ
こでは収入の7～8割、支出に対して5割の内容。次に購入飼料費、乳飼比は多くても3
5%以内、乳量レベルから判断すれば20～25%以内に抑えるべきところ、各年とも
高く、50%を超える年もある。自給飼料の生産量は、乾燥調整量からの逆算推定で
はあるが、10a当たりの収量は3,300kgで、施肥量や地域条件からみても低い。
修繕費がこれに続き、収支差引額はすべての年で多額の欠損計上である。6年間の累計
では多額に上り、一般の酪農経営では破産状態といえる。乳量1kg当たりの費用が同域
同規模経営で52.3円に比べ62.6円と算出される。飼養規模や年代からみれば専
従職員としての待遇は十分である。むしろ一般の社会常識から判断して過分ではないか。
恵まれた待遇の中で十分な義務と責任を果たしているかどうか、来たかどうかについて
十分な反省と総括も必要である。権利を主張して義務を果たさないのは社会人としては、
問題である。」とまで綴られています。

驚くのは酪農学園大学です。

この酪農部門の責任者を機関紙に写真入りで登壇させ、家庭学校や酪農について夢を語らせているのですから、啞然とするしかありません。

何やら田中義剛君を彷彿させます。「乳牛飼養管理については、担当者自身が知識不足を認めている。冬季間などには時間的余裕もあるのではなかろうか。これらの時間を各種の講習会や勉強会に出席して知識や技術を磨くことが必要であり、今までの従事期間にそのような機会がなかったのかどうか。これは酪農部の責任者としての自覚のなさも問われるところである。経営の責任者としては、マネージメントをいかに適切に行うかに懸っている。年間のマネージメントサイクルは[経営計画 Plan — 経営の実践 Do — 経営のチェックと評価（課題の設定） See (Check) — 次年度計画]で、この毎年の繰り返しが経営者としての研鑽を行うことでもあり、経営をより安定化かつ向上させるためには不可欠である。そのためのデータ整備であり、管理でもある。技術的アドバイスのため顧問を置くことを要求しているが、経営のデータの整備がなくては顧問による適切なアドバイスはできない。まずは経営責任者としての自覚を持ち、経営改善に向けた意欲と、同時にそのための経営データの整備を優先することを求めたい」と纏められた一次報告を読み、サロン会員各位も心すべきと思います。

そろそろ代替りの時期、自らの経営をきっちり分析することが重要なのは論を待ちません。

それにつけても校祖 留岡幸助先生が「自然には人を感化する力があり、人は自然のなかでこそ、より良く、より強く育つ」、「愛こそ堅固な^{しょうへき}牆壁である」、「流汗悟道」、エルマイラ感化監獄 ブロックウェーの座右の銘 this one thing I do から得た「一路倒白頭」を語り、この地方で初めてのホルスタイン種による酪農、稲作の導入、冬期学校や季節保育所の開設、産業組合の結成、小作農の開放と自作農家の創設などを想うにつけ、これ等を食い物とする輩がいることをとても残念に思います。

You tube から讚美歌 380 番「霊の戦い」を引いて、三輪源造作詞の校歌、ちょっと口遊んでみませんか。

我ら朝毎^{あさごと} 鋤^{くわ}を取りて
荒れ野^{あれの}を畑^{はた}に 石地^{いしぢ}を田^たに
五穀^{ごこく}実らせ 木^きの実^みを成らせ
神^{かみ}の御跡^{みあと}を そこ^{そこ}に訪ねん^{たず}

我ら鉞^{まさかり} 鑿^{のみ}を取りて
木^きをば切り割り 石^{いし}をば割り
家^{いへ}をも造り 橋^{はし}も架け
神^{かみ}の御跡^{みあと}を そこ^{そこ}に訪ねん

我ら夜毎^{よごと}に 文^{ふみ}を取りて
天^{あま}の真^まも 地^ちの掟^{おきて}も
人^{ひと}の歴史^{れきし}を 学^{まな}び究^{きう}め
神^{かみ}の御跡^{みあと}を そこ^{そこ}に訪ねん

我ら聖^{ひじり}の 跡^{あと}を踏^ふまば
匠^{たくみ}の技^{わざ}を 学^{まな}びの道^{みち}
耕^うす技^{わざ}も 嬉^{うれ}しきかな
神^{かみ}の御技^{みわざ}を 身^みに現^{あらわ}さん

この夏の研修会は、のどかな東北の街、秋田県大館市から北林 諭君に來道いただきます。

記憶にあるこの街は、長走風穴（0℃定温穀物倉庫）、乳白色の湯に煙る日景温泉、イチョウ・エゾヤナギの桂城公園と秋田犬保存会、味噌だれきりたんぽの十字屋など。

初めて会った時は、北秋田郡市田代町 産業振興課でしたが、大館市に合併、現在は
大館市建設部 都市計画課に所属しています。

江戸末期、青森 九戸から逃れきた先祖 北畠仁兵衛（武家）の名をとり田代町岩瀬字
向赤川に、由香ちゃん（妻）が頑張って「豆腐・仁兵衛」を立ち上げ、200丁（1日）
の豆腐に夢を賭けました。

「ニーズに合うものは何か、感動を与えられる商品か、満足を与えられる理論づけ、
全て地域の限定、数量が限られても大丈夫か、不便な場所にあっても生活者が求めに
来て買っただけの商品か、移動販売は可能か」など、昨年の札幌学院大学の授業にも
取り上げました。

「人の健康増進に役立てよう！ 環境にやさしいものづくりを！ よりよい人間関係づ
くりと社会貢献！ 魅力ある人間になれるよう自己成長しよう！」これが「豆腐・仁兵
衛」の存在する理由だよって粹がっている彼女がとっても素敵でした。

全農に勤務していた諭君についての里帰りに、相應の覚悟も必要だったことを思うと、
とっても意地らしいですね。

演題は「豆腐・仁兵衛始末記」としましたが、彼が全農で米穀担当であった事や田代
町では発芽玄米の開発に手を染めたり、現在も水素ボイラーの開発や田代町早口が採
鉱地帯であったことに係わる環境問題など、とても豊富な知識を持つ異色の地方公務
員であることも念頭に、東北の地方都市での問題を提示してもらえればと考えてい
ます。

もう一方は、^{ひとかた}北海道銀行系の北海道リースグループに属し、業務用厨房機器の新品・
中古の販売、買取などを主たる業務とする株式会社厨房ファクトリーから田中修史氏
を招き、農畜産物加工に関する機器の説明や購入する際の注意すべき事などを語っ
てもらえればと考えています。

麦の収穫等を考え、7月23日を予定したのですが、作業の遅れを考慮して7月30
日としました。

内容的には、特に北海道 Roots のメンバーにとってはとっても有意義な研修会にな
ると思います。

小生も7月14日から新潟・佐渡・石川・福井・富山へ旅に出ます。

松江、金沢、富山、新潟と日本海に沿って走る落雁ロード（浄土真宗と結びつく）を
旅するのはとっても楽しみです。

金沢「森八」の380余年の歴史を持つ「長生殿生^{なまじめ} 長方形・墨型落雁」に喉が鳴り
ます。7月21日には帰れると思います。

ポイントが定まったら、北陸又は東北での「夢みる旅」の企画も計画できればと考
えています。

以下、研修会内容を記します。

とっても寒い春でしたが、より多くの皆様のご参加をお待ちしております。

（文：顧問 田中正夫）

記

日時 平成 23 年 7 月 30 日(土) 13:00~
場所 らーめん 将軍本店
代表 佐藤 星輝
札幌市北区北 20 条西 4 丁目 2-19
TEL: 011-299-3941

講演 1. 「豆庵・仁兵衛始末記」
秋田県大館市田代町岩瀬字向赤川
北林 諭様
(秋田県大館市建設部 都市計画課所属)

2. 「厨房ファクトリーの事業に関して」
札幌市北区北 32 条西 2 丁目 1 番 18 号
株式会社厨房ファクトリー 執行役員 営業部長
田中 修史様

3. 懇親会「サロンの今後の活動について」

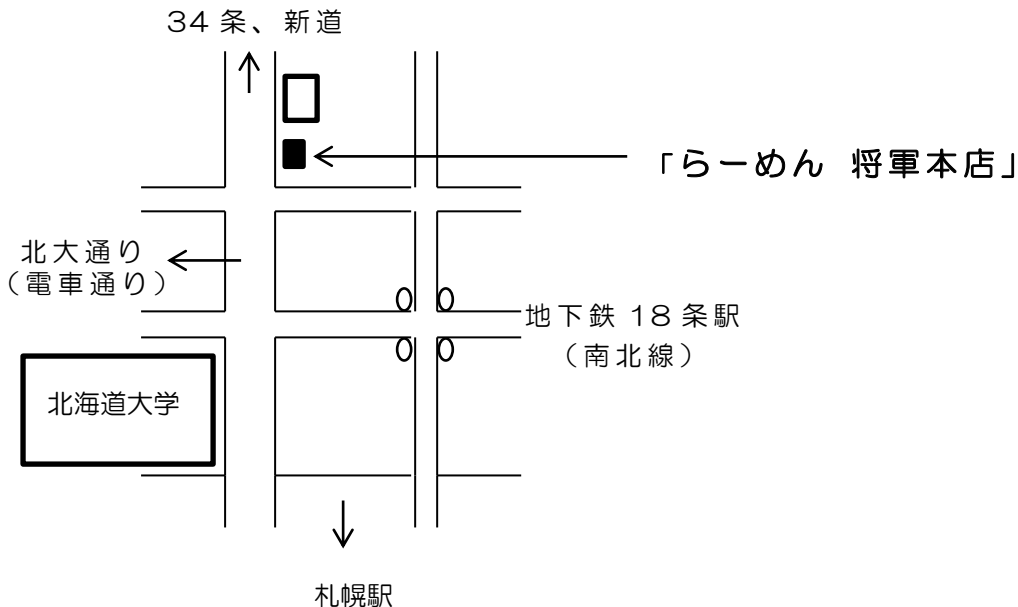
4. 二次会 うたごえ Voice
代表 hiromi
札幌市北区北 24 条西 4 丁目 第 5 タイガービル 2F

会費 3,000 円 (研修会のみ参加の場合)
(会場費・飲食代・講師謝礼) 9,000 円 (懇親会まで参加の場合)
12,000 円 (二次会まで参加の場合)

その他 ご宿泊は、各自ご手配願います。
駐車場はありません。各自で駐車場を探し、駐車してください。

以上

【地図】



F A X : 03-3288-2555

事務局 坂井あて

夏期研修会参加申込書 (☑をお願いします。)

■参加する

講習会のみ参加する

懇親会まで参加する

二次会まで参加する

参加会員名：

同行参加者名：

同行参加者名：

連絡先：

参加しない

【7月15日（金）までに参加の有無をご連絡ください。】

【お問合せ先】

北海道農業者サロン事務局／(株)イーストウエスト東京事務所 坂井明美

〒102-0075 東京都千代田区三番町 7-5-105

Tel:03-3288-1888 Fax: 03-3288-2555